




インフォメーション・コーナー

会 告

○2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会の開催情報 	62
○2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会の参加申込み 	62
○2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み 申込締切 6月10日	63
○今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2026” 応募締切 7月31日	64
○新刊「農業用ダム保全管理工学」の発刊	64
○「農業用ダム保全管理工学」のカバーを修正しました	65
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊	65
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊	65
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	66
○CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載	67
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	67
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	69
○「水土の知（農業農村工学会誌）」閲読ご協力のお礼	69
○「農業農村工学会論文集」査読ご協力のお礼	69
○2027年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	69
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局	70
○第1回農村計画研究部会 次世代と学ぶ農村計画（現地研修）の開催（第1報）9月1～3日開催	71
○第63回アイソトープ・放射線研究発表会の開催 7月8～10日開催	72
農業農村工学会論文集 内容紹介	73
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 	74
学会記事	75

会員のみなさまへ

卒業・転勤などで個人情報等に変更のある方は、suido@jsidre.or.jpまでご連絡ください。会員専用サイトでも、ご登録情報の確認と更新手続きができます。

第94巻第6号予定

展望：莊林幹太郎

小特集：農村地域における農林水産資源を活用した経済循環の構築

報文：酪農家に導入したメタン発酵システムの事業性と環境価値の向上方策：中村真人ほか

報文：実践事例にみる日本型 Climate-Smart Agriculture 萌芽期の課題：山下良平ほか

報文：未利用農作物の実態と六次産業化による活用可能性：齋藤朱未

報文：震災復興地域における農林水産資源を活用した経済循環の再生：堀川洋子

技術レポート

北海道支部：農道拡幅工事における情報化施工とその省力効果：上田胡太郎ほか

東北支部：暗渠疎水材もみ殻の分解特性と簡易開削充填機「モミタス」：佐藤礼菜

関東支部：頭首工のSR堰への改修事例：伊東太一

関東支部：災害を契機としたコンクリート床版式わさび田整備の取組み：小出光太郎

京都支部：地すべり地形内の農道切土工事の施工事例：山本拓次

中国四国支部：新田原井堰におけるエプロン補修工事：宮崎康史ほか

九州沖縄支部：ほ場整備事業確定測量基準点成果の利便性向上とDX：井手照公

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2026年8月 25～28日	大会運営委員会	2026年度(第75回) 農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	大阪市	93巻12号 94巻1, 2, 3, 4, 5号
2026年9月 1～3日	農村計画研究部会	第1回次世代と学ぶ農村計画 (現地研修)	都市農村交流による 持続的な農村振興	群馬県 みなかみ町	94巻5号
2026年10月 29～30日	九州沖繩支部	令和8年度(第107回)支部大会 Ⓟ	未定	大分市	94巻4号
2026年11月 19～20日	京都支部	第83回研究発表会 Ⓟ	—	京都市	94巻4号

2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の開催情報

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会は、大阪公立大学森之宮キャンパスにおいて開催します。

1. 開催期日 2026年8月25日(火)～28日(金)
講演会 : 2026年8月25日(火)～27日(木)
交流会 : 2026年8月25日(火)
現地研修会 : 2026年8月28日(金)

2. 会場

開会式、学会賞授与式、講演会
: 大阪公立大学森之宮キャンパス
交流会 : アートホテル大阪ベイタワー4階 アートグラ

ンドボールルーム

3. スケジュール

- ・講演要旨のアップロード : 5月6日(水)まで
(講演申込み時に入力した登録内容の修正はできません)
- ・企業展示および広告掲載申込み(第94巻第5号(本誌)掲載) : 6月10日(水)まで
- ・参加申込み(第94巻第5号(本誌)掲載)
: 早期割引期間7月24日(金)まで
- ・ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2026”募集(第94巻第5号(本誌)掲載) : 7月31日(金)まで

2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の参加申込み

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会は、2026年8月25日(火)～28日(金)の4日間、昨秋に開設された大阪公立大学森之宮キャンパス(大阪府大阪市)で開催します。本稿では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録(早期割引料金)は、2026年6月1日(月)から7月24日(金)までです。準備や手配のため、1カ月前までの登録にご協力ください。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌第7号(Vol.94/No.7)でお知らせします。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

1. 開催要領

- (1) 開会式および学会賞授与式 : 8月25日(火) 13:30～
会場 大阪公立大学森之宮キャンパス 1階アリーナ
大阪府大阪市城東区森之宮 2-1-132
- (2) 交流会 : 8月25日(火) 18:15～
会場 アートホテル大阪ベイタワー 4階
アートグラインドボールルーム

大阪府大阪市港区弁天 1-2-1

- (3) 講演会 : 8月25日(火), 26日(水), 27日(木)
会場 大阪公立大学森之宮キャンパス 3階～5階
大阪府大阪市城東区森之宮 2-1-132

- (4) 現地研修会 : 8月28日(金)

① JA いずみの愛彩ランド・狭山池コース

9:00 大阪城公園駅発, 10:00 岸和田丘陵, 11:00 泉州やさいのビュッフェ&カフェ(昼食, JA いずみの愛彩ランド), 13:00 広域農道, 14:10 狭山池, 15:30 大阪城公園駅着(予定)

② 奥河内くろまろの郷・久米田池コース

9:00 大阪城公園駅発, 10:00 広域農道, 11:00 ビュッフェレストラン奥河内(昼食, 奥河内くろまろの郷), 13:00 岸和田丘陵, 14:00 久米田池, 15:30 大阪城公園駅着(予定)

開会式および交流会、現地研修会などの開始時刻については、プログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細、プログラムともに本誌第7号に掲載します。

2. 申込方法

2026年度(第75回)農業農村工学会大会専用サイトから参加登録(7月24日まで早期割引料金)をしてください。7月25日以降は通常料金のみとなります。この専用サイトは農業農村工学会のホームページからもリンクされます。専用サイトによる登録ができず、その他の方法での申込みを希望する場合は、「7.(1)参加申込みに関する問合せ」までご連絡ください。

3. 参加費用

(1) 大会参加費用(税込)と内容

- ・会員区分に従って参加登録してください。
- ・非会員の参加も大歓迎です。
- ・オンラインで参加する学生は無料ですが、参加登録は必要です。

区分	早期割引料金(7/24まで)	通常料金(7/25から)
一般	13,200円	15,400円
学生	3,300円	5,500円
一般(オンライン)	13,200円	15,400円
学生(オンライン)	0円	0円

- ・オンライン参加および現地参加を併用する場合は、現地参加として登録してください。
- ・オンライン参加は聴講のみで、チャットでのコメントや質問はできません。

(2) 交流会参加費

一般8,250円(税込)、学生4,400円(税込)です。

(3) 現地研修会参加費

参加費は①、②コースともに6,600円(税込)で、交通費と昼食代が含まれます。昼食はいずれも地域の食材が使われたビュッフェ形式です。①JAいずみの愛彩ランドでは「泉州やさいのビュッフェ&カフェ」を、②奥河内くろまろの郷では「ビュッフェレストラン奥河内」を予約します。昼食が不要な方も参加費は同額です。その他の詳細については、農業農村工学会大会専用サイトおよび本誌第7号に掲載します。

4. 昼食

会場(大阪公立大学森之宮キャンパス)の周辺には飲食店や

コンビニエンスストアがほとんどありませんので弁当の事前予約を受け付けます。大会当日の弁当販売は行いませんので、農業農村工学会大会専用サイトでの参加登録(事前登録)の際にお申し込みください。弁当代は1,080円(税込・お茶付)です。なお、夏休み期間中ですが大学の生協食堂は営業していますので利用可能です。

5. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しませんので、あらかじめご了承ください。

6. 会場までの交通案内

大阪公立大学森之宮キャンパスおよびアートホテル大阪ベイタワーまでのアクセスにつきましては、以下のウェブサイトをご参照ください。

大阪公立大学森之宮キャンパス

<https://www.omu.ac.jp/about/campus/morinomiy/>

※地図上の最寄り駅「大阪城公園」からのアクセスは禁止されていますのでご注意ください。

アートホテル大阪ベイタワー

<https://www.osaka-baytower.com/access/>

7. 問合せ先

(1) 参加申込みに関する問合せ

近畿日本ツーリスト(株)法人第3支店

「農業農村工学会2026年度大会講演会」係

担当:花咲・梅津

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-13

住友商事神田和泉町ビル12階

E-mail: ec-conv8@or.knt.co.jp

(2) 大会全般に関する問合せ

2026年度農業農村工学会大会事務局

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪公立大学大学院農学研究科

E-mail: 2026taikai-osaka@jsidre.or.jp

8. 大会運営委員会

委員長 中桐貴生(大阪公立大学大学院農学研究科)

2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み

2026年8月25日(火)、26日(水)、27日(木)の3日間、昨年秋、新たに開設された大阪公立大学森之宮キャンパス(大阪府大阪市)で開催します「2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会」において、企業展示および大会講演会概要集に掲載する広告の募集を行います。今回の企業展示会場は、アリーナを使用し、余裕のある広いスペース(1ブース当たり:従来の1.8m×1.5mから2.0m×2.0mに拡大)を確保するとともに、受付、ポスター発表会場、企業展示会場、リクルートコーナー等を一体化した場所とすることで、多くの参加者が訪れやすい会場とします。また、1社当たりの企業展示ブース

の数に制限を設けず、1社当たり2ブース以上の使用も可能となっております。なお、従来どおり開会式における企業展示紹介(1分間)の場も設けます。

学会は今、人材確保と育成が喫緊の課題であり、ぜひとも企業展示と広告への申込みをお願いいたします。

1. 企業展示

大阪公立大学森之宮キャンパスの1階アリーナ(屋内)で行います。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載(A4判モノクロ印刷)します。

※概要集は大会参加者全員に配布します。

※オンライン聴講での参加者はダウンロード方式です。

3. 料 金

- | | |
|----------------------|--------------|
| ①企業展示(1ブース) | 110,000円(税込) |
| ②広告1ページ | 88,000円(税込) |
| ③広告1/2ページ | 44,000円(税込) |
| ④企業展示(1ブース)+広告1ページ | 176,000円(税込) |
| ⑤企業展示(1ブース)+広告1/2ページ | 143,000円(税込) |

なお、企業展示と広告をセットで申し込まれ、さらに企業展示ブースを追加する場合、上記、④、⑤の金額に追加ブース代(1ブース当たり110,000円(税込))が加算されます。

(例：企業展示(2ブース)+広告1ページの場合286,000円(税込)、企業展示(2ブース)+広告1/2ページの場合253,000円(税込))

また、企業展示に2ブース以上お申込みいただいた企業・団体につきましては追加料金なしで大会専用サイトにバナーを掲

載します。

4. 申込方法

- (1) 企業展示および広告掲載の申込みは Web 上で行います。URL は <https://questant.jp/q/2026kigyuu> です。申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。企業展示の場合は、展示する内容(概要)および電源の可否を入力してください。基準面積は幅2.0m×奥行き2.0mです。企業展示パンフレットに掲載する原稿および企業ロゴを提供いただきます。後日、連絡担当者に直接ご連絡します。
- (2) 申込期限 2026年6月10日(水)
- (3) 申込み・問合せ先
2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会実行委員会
E-mail: 2026taikai-osaka@jsidre.or.jp

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！2026”

農業農村工学会広報委員会では、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2026年7月31日(金)
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2026年度のテーマ 「農業農村で〇〇を試してみた結果…」
※「〇〇」と「…」には、ご自身の応募動画に沿った文言を記入
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 指定されたタグを付けて動画を YouTube へアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画 WT で審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞 金 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
 - ①動画を作成する。
 - ②YouTubeにアップロードする(9.参考資料を参照)。
 - ③タグに3つのワード(jsidre2026, こりゃ映像, 農業農村)を入れる。
 - ④カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤下記の情報を広報委員会動画 WT (new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
氏名, 所属, 連絡先, YouTube 動画の URL

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像2025 結果

最優秀賞：害虫を祓い豊作を祈願する神秘の祭り～虫送り～小豆島

神戸大学大学院農学研究科 永谷太志・重吉振一郎
https://youtu.be/0UKgma5ZpI0?si=r_KHEhIO3H1meyrA
優秀賞：ここだけの！水土里 能登の水田 ～環境保全と農業復興への挑戦～

内外エンジニアリング(株)技術1部
(内外エンジニアリング(株)能登復興支援チーム
なつとない能登)

福竹望実・田原郁子

<https://youtu.be/Bhg5SpPOC4M>

優秀賞：田んぼさんぽ

三重大学生物資源学部共生環境学科農業土木学教育コース
辻本彩名

<https://youtube.com/shorts/WNFcSVsqwas>

新刊 「農業用ダム保全管理工学」の発刊

農業農村工学会では、学会内で長年活動した農業用ダム保全管理研究会を母体に農業用ダム保全管理工学編集委員会を組織

して、「農業用ダム保全管理工学」を出版いたしました。改正土地改良法において、保全が明記されています。そのため、現

場技術者が知っておくべき農業用ダムの技術を基礎的な事項から解説することで、技術研修のテキストや大学での教科書にも活用できることを意図しています。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：農業用ダム保全管理工学
 編集：農業用ダム保全管理工学編集委員会
 発行：(公社)農業農村工学会
 価格：3,960円(税込)、学割：2,960円
 送料：1冊200円(最大600円)
 規格：A5判 306ページ
 発行日：令和7年9月1日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会事務局 図書係
 TEL：03-3436-3418
 E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業用ダム保全管理工学」のカバーを修正しました

令和7年9月1日に発刊いたしました「農業用ダム保全管理工学」について、カバーに不備が見られましたので修正いたしました。大会講演会会場にてご購入いただきました方には修正版のカバーを送付いたしますので、下記あてにご連絡をお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会事務局 図書係
 TEL：03-3436-3418
 E-mail：suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊

令和7年4月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」(農林水産省農村振興局編集)を令和7年12月に発刊いたしました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書
 編集：農林水産省農村振興局
 価格：2,530円(税込)、送料：1冊200円(最大600円)
 規格：A4判 366ページ
 発行日：令和7年12月17日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会事務局 図書係
 TEL：03-3436-3418
 E-mail：suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び

運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」(農

林水産省農村振興局編集)を令和6年10月に発刊いたしました。
購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画
「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：1,760円(税込)、送料：1冊200円(最大600円)

規格：A4判 173ページ

発行日：令和6年10月10日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計
「頭首工」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,510円(税込)、送料：1冊200円(最大600円)

規格：A4判 728ページ

発行日：令和6年10月7日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計
「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970円(税込)、送料：1冊200円(最大600円)

規格：A4判 850ページ

発行日：令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では2026年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024年5月には、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究(学会に一人)

(※特に記載がなければ(1)として扱います。)

(2) 条件を付した寄付

選定条件【

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進

・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工

学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進

・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的・学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ(https://www.jsidre.or.jp/gakujujsukikin_kifuno-onagai/)をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店
 普通預金 No.1569058
 口座名 (社)農業農村工学会学術基金
 郵便振替：00140-2-54031
 加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 通信教育の参加者募集 !! 問題と解答はホームページに掲載

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

技術者継続教育機構のホームページにおいて、その時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認いただけます。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構

のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌5号掲載の問題は6月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎月テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第94巻・第95巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第94巻第6号	農村地域における農林水産資源を活用した経済循環の構築	終了
7号	近畿の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み	公募なし
8号	農業高校を取巻く多様な人材育成の取組み	終了
9号	工事・調査・実験・管理等の現場における基本作業の工夫と技術	終了
10号	農業農村整備における生態系配慮技術の最前線	終了
11号	農地整備を契機とした新たな農業経営（仮）	5月10日
12号	土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用（仮）	6月10日
第95巻第1号	農業農村工学研究のフロンティア（仮）	7月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）
 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
 (公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第94巻第11号テーマ「農地整備を契機とした新たな農業経営」(仮)

わが国の農業・農村は、今後20年で基幹的農業従事者が現在の約4分の1(約30万人)まで激減するという、かつてない深刻な事態に直面しようとしています。こうした中で将来にわたり食料自給力を確保し、食料安全保障を確立していくことは、農業農村工学に携わるわれわれに課せられた最大の責務です。新たな食料・農業・農村基本法に基づく初動5年間で「農業構造転換集中対策期間」と位置付けられ、令和7年9月に閣議決定された「土地改良長期計画」では、この状況乗り越えるため、コストの徹底的な低減に向けた農地の大区画化等を集中的に推進することとしています。

また、土地改良事業の目的は、単なる物理的な基盤の整備にとどまりません。令和7年3月に改正された土地改良法においても、スマート農業や担い手のニーズに対応した基盤整備を推進するための措置が明記されました。農地の集積・集約化や1ha以上の大区画化といった基盤整備や自動走行農機、自動給水栓といったスマート農業技術の導入は、生産性の向上や省力化を実現するための土台であると同時に、地域の営農戦略に

即した収益性の高い「新たな農業経営」へと質的に転換させるための契機でもあります。

このような中、近年、基盤整備やスマート農業技術の導入を足掛かりとして、組織の足腰を強くする法人化、生産・加工・販売を一体化させる6次産業化、地域資源を活かした農泊、さらには社会的な包摂を図る農福連携など、多様で創造的な農業経営が芽吹いています。

そこで本小特集では、こういった基盤整備やスマート農業技術の導入といった「農地整備」を契機として展開された「新たな農業経営」に関する報文を広く募集いたします。具体的には上記の法人化、6次産業化、農泊や農福連携などの事例のほか、大規模基盤整備を活用した経営多角化の成功事例、スマート農業導入による経営改善の実証報告、多面的な視点からの地域営農システムの構築事例などを対象とします。本小特集を通じて、農地整備を契機とした新たな農業経営についての知見を共有し、議論を深める機会としたいと考えます。

学会誌第94巻第12号

テーマ「土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用」(仮)

令和7年9月に閣議決定された土地改良長期計画では、「農業水利施設の戦略的な保全管理による持続的な機能確保」が重要な政策目標として位置づけられました。ダム、水路、頭首工、ため池などの基幹施設の老朽化が全国的に進行する一方、管理を担う人材の減少や維持管理費の制約が深刻化しており、限られた資源のもとで施設機能を将来にわたり確保するためには、従来の事後保全型から、計画的かつ予防的なストックマネジメントへの転換が不可欠です。

近年、調査・測量・設計・施工・維持管理の各段階において3次元データの活用(BIM/CIM)やICT施工が普及し、施設情報のデジタル化とプロセス全体の効率化が進展しています。さらに、AIを活用した劣化予測や機能診断、ロボットによる

管路点検、ため池の遠隔監視や操作の自動化など、デジタル技術の導入は着実に広がっています。これらの取組みは、現実空間の施設をデジタル空間上で再現・解析するデジタルツインの概念にも通じ、データに基づく合理的な意思決定と省力化を同時に実現する基盤技術として期待されています。

本小特集では、こうした技術の導入事例や効果検証、実装上の課題、データ利活用の方法論、人材育成や運用体制の工夫などを広く共有し、農業水利施設の持続的保全に向けた新たな方向性を議論する報文を募集いたします。デジタル技術を核とした次世代のストックマネジメントの姿を展望する場となることを期待いたします。

学会誌第95巻第1号テーマ「農業農村工学研究のフロンティア」(仮)

農業農村工学の端緒である「耕地整理講義」では、水路、道路、区画、貯水池などの施設設計が体系化されています。併せて「農法の変遷」という時代の変化に柔軟に対応する必要性が述べられています。これに不ならい、施設設計のみに囚われることなく、エネルギー循環、生態系の保全、農村社会の維持など、本学会は時代に合わせて研究対象を拡大してきました。

2025年9月に閣議決定された土地改良長期計画では、スマート農業による生産性向上、流域治水等の強靱化、農村の魅力創出などが重点課題とされています。また、2026年度から始ま

る第7期科学技術・イノベーション基本計画では、研究の進め方の刷新、科学研究のAI活用、地域イノベーションの推進などが検討されています。

本小特集では、本学会の特徴である融通無碍な研究姿勢を再認識し、他分野との境界領域や、対象外と捉えられうる研究を広く募集します。例として、以下のような課題を想定しています。
・栽培学や営農技術との境界：気候変動や農村社会の変化に対応した生産体系の最適化やスマート農業による農作物の品質・機能性の向上

- ・食品産業や食品流通との境界：6次産業化を支える加工・流通インフラの整備や地域資源の循環利用モデル
 - ・社会科学や地域マネジメントとの融合：農村の地域運営組織や、地域の社会課題の解決につながる取組み
- 上記は、あくまでも例に過ぎません。当分野との接点を明確

に意識しつつも、固定観念を打破する自由な発想による投稿を歓迎します。次世代を担う学生や若手研究者にとって、本学会が総合知の最前線であることを示すことのできる小特集となることを期待します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

「水土の知（農業農村工学会誌）」 閲読ご協力のお礼

「水土の知（農業農村工学会誌）」は、2025年度において、第93巻第4号～第94巻第3号の12冊を発行することができました。これもひとえに昨年度の一年間に閲読のご協力をいただきました約80名の方々のご尽力の賜と感謝いたします。

今後ともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。なお、個人情報保護の観点から、閲読者のお名前は非公表とさせていただきます。

「農業農村工学会論文集」 査読ご協力のお礼

農業農村工学会論文集は、2025年度において、研究論文23本、研究報文6本、研究展望1本、研究ノート6本をJ-STAGEに公開することができました。これもひとえに昨年度の一年間に査読のご協力をいただきました約120名の方々

のご尽力の賜と感謝いたします。今後ともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。なお、個人情報保護の観点から、査読者のお名前は非公表とさせていただきます。

2027年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2027年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご

応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集め

多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。また、学生の方が実習やインターンシップなどで訪れた現場の写真も歓迎します。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第95巻（2027年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 2026年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第95巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2027年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および賞金について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の賞金（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の著作権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。なお、Paddy and Water Environment誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンsoonアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情

報誌です。また、2024年のインパクトファクター（IF）は2.1であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）

- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理，地すべり，気候変動，災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換，施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

また，世界 12 カ国から Editor（22 名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

2024 年 7 月から，新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Geo-Environmental Science, Rissho University, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

・ Editors 12 カ国から 22 名

・ Editorial Advisors 27 名

・ Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

・ Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Shutaro SHIRAKI

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS), Japan

編集事務局（2026 年 6 月まで日本担当）

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先：オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年 4 回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 9,900 円（税込）

学生会員（院生含む）4,950 円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込みください。

なお，オンラインジャーナルへの完全移行に伴い，2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上，お申し込みください。

第 1 回農村計画研究部会 次世代と学ぶ農村計画（現地研修）の開催（第 1 報）

当部会では昨年度まで 46 回にわたり行ってきた，おもに地方自治体職員対象の研修を目的とした現地研修集会を改め，今年度から農村計画を担う次世代の育成を目的とする新しい現地研修プログラムを行うこととなりました。これは農村地域の社会や経済，空間利用いづれにおいてもその見通しがますます難しくなる中で，農業農村工学において農村計画分野を専門とする人材の育成が希求されているとの理解に端を発する企画です。全国の農村計画に関連する研究室の学生の皆さんが定期的に集える場の形成を目指しています。学生の皆さんはもちろん

学生をエンカレッジしたい，あるいは次世代の育成に関心のある農村計画・農村整備現場担当者の方々の積極的な参加をお待ちしています。

1. 主催 農業農村工学会農村計画研究部会
2. 共催（予定） 農村計画学会，群馬県利根郡みなかみ町
3. 日程 令和 8 年 9 月 1 日（火）～3 日（木）
4. 場所 群馬県みなかみ町たくみの里
5. テーマ 都市農村交流による持続的な農村振興
6. 趣旨

90年代以降、ガット・ウルグアイラウンド関連対策を含む農業構造改善事業等により整備された都市農村交流施設（情報発信、郷土料理提供、特産品販売、宿泊等）を拠点として、農村空間における経済活動および人的交流を促進する都市農村交流事業が、わが国の農村振興施策の一環として展開されてきた。しかし、過疎・高齢化の進行や市町村合併に伴う行政区域の広域化、担い手不足の深刻化といった社会構造の変化の中で、これらの取組みの持続性が大きな課題となっている。

本研修では、都市農村交流による農村振興を先駆的に実践してきた群馬県みなかみ町たくみの里を対象に、わが国における農村振興の取組みの体系的な学習と現地見学および関係者との意見交換を通じて、都市農村交流の実態と持続性にかかる課題を実践的に学ぶ。こうした現場での学びに加えて、学生による各自の研究テーマに基づく発表とそれに対する討議を行う。なお、発表テーマは都市農村交流に限定せず、農村計画に関する各自の研究テーマとし、大学の枠を超えた学際的な議論と交流の場とする。

そして、このプログラムを通して次世代の農村計画を担う人材の育成と、分野横断的な学びと交流の促進を図る。

7. 募集人数

- ・大学生または大学院生 15名程度（先着順）
 - ・一般（社会人）5名程度（先着順）
- ※学会員以外の方もご参加いただけます。

8. 行程（予定）

9月1日（火）	
13:00	上毛高原駅（上越新幹線）集合
13:30～17:00	農村振興に関する勉強会
18:00～	情報交換会
9月2日（水）	

9:00～12:00	たくみの里の見学会
12:00～13:00	昼食
13:00～15:00	意見交換会
15:00	（合同ゼミに参加しない場合はここで解散）
16:00～18:00	合同ゼミ
19:00～	親睦会
9月3日（木）	
9:00～12:00	合同ゼミ
13:00	上毛高原駅（上越新幹線）解散

9. 参加費

- (1) 参加費 無料
※集合場所までの交通費は各自負担とする。
- (2) 宿泊費 一泊二日の場合は8,000円、二泊三日の場合は16,000円
猿ヶ京温泉 仁田屋旅館
<https://www.nitayaryokan.com/>
- (3) 申込み期限 令和8年8月上旬
- (4) 申込みフォーム
下記 URL もしくは右記二次元コードより登録してください。
<https://forms.gle/k3NrYZgPkTuEMtaZ8>
- (5) 問合せ先
研修集会担当
東京農工大学 中島正裕
E-mail: masa1021@cc.tuat.ac.jp
農村計画研究部会 事務局
三重大学生物資源学部 森本英嗣
E-mail: morimoto@bio.mie-u.ac.jp



第63回アイソトープ・放射線研究発表会の開催

1. 主催 (公社)日本アイソトープ協会
後援 農業農村工学会ほか
2. 日時 2026年7月8日（水）～10日（金）
3. 会場 日本科学未来館 7階未来館ホールほか
〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-6

4. その他
詳しくは、第63回アイソトープ・放射線研究発表会のホームページ (<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jrias2026>) をご覧ください。